

目 次

書物の有難さを知って欲しい！	1
心惹かれるもの	2
「ノーベル賞の光と陰」を読んで思う事	3
『ティファニーで朝食を』を原書で読む会 報告	5
平成18年度読書奨励企画実施報告	6
第6回 図書館月間を開催	8
図書館サービス紹介	12
受入資料紹介	13
図書館統計 平成15年度～平成17年度	16
人事異動	19
図書館日誌（会議・研修・来客等）	20
表紙解説 『民間格致問答』	

書物の有難さを知って欲しい！

附属図書館長 高崎 洋三

この世に数冊しか存在しない書物を貴重書と呼んでいる。佐賀大学図書館も多くの貴重書を所蔵していて、地域学歴史文化研究センターなどの歴史関係の研究者に貢献している。

先日、武雄市の図書館内にある歴史資料館を訪問して、多くの蘭書が保管してあるのに驚いた。全て佐賀藩武雄領で購入したものだ。江戸時代の蘭書は、云うまでもなく、長崎・出島に居住するオランダ人から購入した。あるいは“通詞”と呼ばれる出入りの通訳から買ったものもあるそうだ。ただ、鎖国中なので公式に購入すると規制が厳しいので、このような人達から非公式に購入した物が多い。これを『除き物』と呼んだが、その値段が目玉が飛び出るくらい高かったそうだ。当時の武雄領の鍋島家はその金をどうやって工面したのだろう。余談であるが、高価な書物を売りつけた連中はかなり裕福であったらしい。また単に通詞としてでなく、自分で蘭学を勉強して学者や医者になった人も多かった。志筑忠雄のように早い時期にニュートン力学を紹介した人物もいる。

では何故、武雄では多くの蘭書を購入したのだろうか。それは領主・鍋島茂義が、蘭学をはじめとする西洋の学問・技術を吸収する意欲に溢れていたからである。そして、得た知識を用いて多くの技術や産業を創始したのである。彼が砲術で有名な高島秋帆に弟子入りした話は有名である。蘭書をつうじて学んだ事は多かった訳だ。また多くの人が蘭書を読み、武雄を訪れた。そして書き写して帰った。当時の若者達はすさまじく勉強した。歴史文化研究センター・青木歳幸教授の調べでは、当時佐賀で蘭学を勉強した人数は186人に昇るそうだ。もちろんシーボルトや緒方洪庵等の教えを受けた者が多かったが、一人で蘭書を読んで独学をした者もいたようだ。

長々と書いてきたが、状況が如何に現代と異な

るか分ってもらえただろうか。貴重書を複写機でコピーもできず、手書きでひたすら写した若者達、筆を使ってアルファベットや西洋数字を墨書した姿が想像できるだろうか。難しい文章の和訳に何日も取り組んだことは、ターヘルアナトミアの訳本「解体新書」完成のエピソードからも窺えるだろう。若者達は一冊しかない蘭書を奪うように回して勉強したのだろう。そのような事情が、印刷技術を進歩させたようだ。そうやって佐賀藩は、我が国最大の科学技術を手に入れたのである。

現在では本は簡単に入手できる。山林を破壊しながらであるが、紙も昔に比べれば数段立派になっている。パソコンの画面からは豊富な情報が得られる。しかし今も、印刷物も含めて書物は有難いものであり、書物を開いてページをめくる行為こそが、人を育て学問も科学技術も伸ばしてくれると私は信じている。同様に、手を動かして筆記する行為が素晴らしい文章を生むのだ。私は、自戒をこめてペンマンシップの普及を望んでいる。江戸末期から明治にかけての若者達は、書物を通読しかつ自分で書き写すことにより最後には内容を諳んじて言えたそうだ。書物は彼らの宝だったに違いない。

だから学生諸君よ、佐賀藩の輝かしい歴史を担う学生達よ、時代は変わっても本を大事にして、いろんな事を学び取って欲しい。傷つけたり書き込んだりするなんて信じられない。図書館内で飲み食いをして、本を汚したりしてくれるな。図書館を清潔に保って欲しい。

人間が心を打ち込み、涙を流し、夢を抱く事のできる古来からの魔物＝書物を終生愛して欲しいものだ。(医学部教授)

心惹かれるもの

文化教育学部教授 熊本千明

何となく心惹かれるもの、というのがある。理由も分からずに好きだったいくつかのものが、系統だったものであったと気づくのは、嬉しい。こうした思いをしたことが、私には三度あった。

最初は、高校生のときである。チェックのスカートやブレザーが好きだった私は、この頃、アイビールックという、一つのまとまりをもったスタイルがあることを知った。毎月 *mc Sister* という雑誌を開くのが楽しみで、レジメンタル、ロイヤルクレスト、コインローファーやタッセルなどの言葉と、タータンの種類を覚えた。そのうち、知り合いのお兄さんから、*MEN'S CLUB* まで借りてきて読むようになった。男性の服装の方はとても素敵だと思ったけれど、そこに出ている女性は少し感じが違って、ちょっと不満だった。高校は制服だったが、グレーの三つ揃いを着ることが決められていただけだったから、タッターソールのシャツに、色を合わせたアーガイルのハイソックス、木枯らしが吹くと、大好きなタータンのマフラーに真っ赤なコートをはおって通った。

次は、大学三年のときである。アメリカからお帰りになったばかりの三十代の先生が、意味論の御授業をして下さった。小さい頃からの疑問に答えてくれる学問分野があると知って、私は喜んだ。両親が「明日は天気だ」というのを聞いては、雨だって天気なのに、と不思議がり、風呂に火をつけたり、頭を刈ったりしたら大変だ、と面白がっていた。中学で英語を習うようになってからは、*Nothing is better than A* というのは、なぜ A が最上であると解釈しなければならないのか、納得できなかった。A があまりにひどいので、そんなものなら、ない方がいい、と言っているのだと考えても良いではないか。高校時代にハワイに行ったときには、*Will you...?* と言いながら、最後に *please* をつけていることに気づき、はっとした。なぜ、今、私は疑問文を使いながら *please*

などをつけたのだろうか。こうした言葉に対する私の興味は、すべて意味論の射程内にあるものだったのである。

三つ目は、数年前のことである。引越しをして、じゅうたん、カーテンを新しくした。和風でも洋風でもないものを選ぶことに気を配り、お気に入りのお皿との調和を考えた。最近では気軽に買えるものがなくなり、足が遠のいているが、以前はよく骨董屋に立ち寄った。絵皿を買うときには、山水や人物ではなく、連続模様が入っているものを選んだ。そういう柄の器は、洋食器との相性も良いのである。部屋を見渡すと、中国風とも思える緞子のカーテン、イランのじゅうたん、そして、江戸の古伊万里、これだけ異質なものを集めて、よくまとまったと思う。その訳を考えてみることもなかったが、ある日、答えを与えてくれたのは、鶴岡真弓氏の著作であった。意匠のもつ意味を解き、東西の文化交流を語る氏の話は、自然観、時間観、死生観にまで及ぶ。そういえば、私の気に入ったものには、渦巻き模様、とりわけ唐草模様が含まれていて、それが統一感の因であった。

骨董屋の御主人がいつか言っていた。これは掘り出し物だとか、後で値が上がるとか言われて買い集めたものはコレクションとしてちっとも面白くないが、一人の人が自分の好みに忠実に選んだものは、個々には価値のないものが含まれていたとしても、それなりにまとまりのある良いコレクションになることが多いというのである。好きなものには理由がある。心惹かれるということは、自分とそのものがびったり沿うということであろう。心惹かれたものが他ならぬ自分自身の反映であるとするならば、そこに筋が通っていることを知るの、なんと心地好いことであろう。

「ノーベル賞の光と陰」を読んで思う事

医学部教授 徳 永 藏

医学部の基礎講座に所属していると、書籍に対する関心は自然科学や教育に偏りがちで、いわゆる専門バカと言われる部族に入ってしまう。しかし常識的なレベルの経済や政治や法律の知識が必要な機会は日常生活の中でしばしばあり、自分なりに理解できそうな本を読みはじめても少しでも難解な専門用語がでてくると長続きはしない。やはり自分の頭、体のみならず、周囲の環境までも理系のシミで染まってしまっているからだろうと最近では諦めている。また脳の中に余分な知識が入るスペースが加齢とともに急速に減少していることが実感として分かり如何ともし難い。

「ノーベル賞の光と陰」(科学朝日編)は1981年が初版で20話、次いで1987年に2話追加され計22話が増補版として出版されていて、何回読み直しても飽きない。毎年ノーベル賞が発表される秋になるとこの本のことを思い出し、本棚から取り出してつい読み直してしまう。当時、自然科学分野で日本人のノーベル賞受賞者は湯川秀樹(敬称略以下同、1949)、朝永振一郎(1965)、江崎玲於奈(1973)、福井謙一(1981)、利根川進(1987)氏の5名であるが、以後暫くのブランクにおいて白川英樹(2000)、野依良治(2001)、小柴昌俊(2002)、田中耕一(2002)氏が受賞しているのは多くの日本人の記憶に新しいところであろう。その他文学賞を川端康成(1968)、大江健三郎(1994)、平和賞を佐藤栄作(1974)氏が受賞している。

本誌に取り上げられているのは自然科学分野の光と陰についてである。ノーベル賞は科学研究において、その時代の最先端の著明な業績をあげた研究者に対して授けられる最高の荣誉であるが、19世紀から20世紀初頭は自然科学に関していえば欧米が圧倒的に進んでいて世界をリードしてい

たことは誰もが認めるところであろう。特にイギリス、ドイツ、フランスは文化、経済、政治の中心で、1901年にノーベル賞が創設されて第2次世界大戦が終わる1945年までの主要国の受賞数をみるとドイツ 35、イギリス 24、フランス 16回で、当時のドイツ帝国の実力のほどが伺われる。ちなみに現在圧倒的な国力で世界をリードしているアメリカは18回に過ぎない。しかもノーベル賞は如何に優れた研究であっても、受賞資格は本人が存命中でなければならず、死亡者には与えられないことになっている。また同一分野の受賞は4名以上には分与されないことになっていて、当時の科学の重要な発展に4名がほぼ均等な貢献をしても3名に絞られ、1人は泣きを見ることになる。これらのことが悲喜こもごものノーベル賞受賞物語として計22話述べられている。

何回読み直しても飽きないといったが、正直言うとうと1回では理解できないので繰り返し何回も読むというのが正しい。ただ各話題はそれぞれその領域の専門家ができるだけ平易に解説しているので、私のような門外漢でも当時の研究状況が手に取るように理解できる。学会や論文発表の月単位の先陣争いや、研究仲間や師弟間での競争(良い意味での)についての記述は、研究者同士が互いに切磋琢磨して科学が進歩していく様子が読みとれる。中には余りにも熾烈な競争のためか、功を焦りすぎたためか、受賞した研究内容が後に否定された例もあり、最近ではある程度期間において研究内容や学説が確立してから賞を決定する傾向にあるとのこと。

その中で特に印象に残ったのは、抗毒素血清療法に関する北里柴三郎とビタミンB1発見に関する鈴木梅太郎に関する記述で、いずれもノーベル賞の陰の側面として述べられている。二人とも業

績やプライオリティの高さなどから同時受賞を受けて当然と思われる優れた研究であったが、どうも非科学的な理由で受賞から外れたようで、読み進んでいくにつれ激しい憤りを覚えてくるほどである。先人の努力と苦勞が思い偲ばれてくる。目の目は見ないもののこのような日本人のためまぬ努力が最近のノーベル賞の受賞に結びついてきたことは疑いようがない。

しかし、もう一つこの本を思い出す理由は、ノーベル賞とは余りにも対極した出来事が最近自然科学分野で頻発していることにある。ごく一部の研究者に限ったことであると信じたいが、Nature や Science に掲載された論文でデータの捏造が相次いで発覚している事である。このような低レベルの不祥事は我が国とは関係ない事と思っていたが、日本をリードするトップクラスの大学で、科学者にあるまじき行為が相次いで発覚し、Science 紙上で大きく取り上げられたことは大きなショックであった (Science 315:26, 2007)。大学で研究するものとして真理を追究していくことが使命であるのに、その根拠が捏造されたものとしたら救いようがない。私達大学人は常に襟を正し、真理の探究に邁進しなければならないことを改めて感ずる次第である。

『ティファニーで朝食を』を原書で読む会 報告

附属図書館では、平成17年度より読書奨励企画のひとつとして、英語の本を読む会を開催しています。この会は、教育学研究科教科教育専攻英語教育専修の大学院生数名をチューターとして、学生・市民の方々に英語で書かれた本に親しむ機会を提供します。

昨年度は、学生のみ参加による「『Good Luck』を読む会」でしたが、今年度は、市民の方々と交えて『ティファニーで朝食を』を原書で読む会を、平成18年11月から19年2月の間の土曜日の午後で開催することにしました。

毎回、オードリー・ヘプバーン主演の同名の映画を鑑賞しつつ、テキストや訳本を読み、チューターの説明を聞きながら、英語の小説を楽しみました。『ティファニーで朝食を』の主人公ホリーの生き方についてディスカッションをしたり、日本語と違う表現に気づいたり、中学・高校で経験してきた「英語の勉強」というイメージとは全く違う時間を過ごすことができました。

「テキストの内容は少し難しかったけれど、映画のストーリーとの違いに気づいたり、原文と訳本の文章とを対比して読んだりして面白かった。」「読み進めるうちに主人公の性格や生き方がより深く理解できるようになった。」「一人では途中であきらめてしまい、終わりまで読むことができないが、このような会で読むと最後まで読むことができる。」などのご意見を頂きました。

チューターの方たちは、毎回楽しく会に参加できるように、いろいろ工夫をし、丁寧に指導してくださいました。ありがとうございました。



平成18年度読書奨励企画 「学生選書委員による選書」実施報告

平成18年度の読書奨励企画として、各学部の図書委員の教員から推薦された11名の学生が図書館の本を選ぶ、「学生選書委員による選書」を実施しました。実際本を手にとりて選ぶ「選書ツアー」を、1月17日に紀伊國屋書店佐賀店でおこない、当日参加できなかった学生は、紀伊國屋のオンライン書店で選書に参加しました。学生選書委員は、図書の選



さあ！選ぶぞ！



しばし悩む…



これよかね～

員は、図書の選択に悩みつつも楽しく満足できた様子で、図書館や本に親しんでもらうよい機会となったようです。選ばれた図書230冊はすべて購入され、2月から本館・分館に配架されています。

私がお勧めする本

文化教育学部国際文化課程3年 太田 真奈美

1月17日の選書ツアーでは、私は主に人が読みやすい入門書を多く選びました。嫌手だと思える分野でも、簡潔にまとめられ、やさしい文章であれば、踏み入りやすく、どのような年齢層の方々でも読むことができるだろうと考えたからです。少しでも、読んだ人の視野が広がればいいなと思います。

入門書ではないけれども、私がお勧めしたい本が2つあります。

一つは、最近流行しつつあるソーシャルネットワークサイトmixiに関する本です。

以前見たニュースでは、mixiに書き込まれたブログに、一方的に中傷するようなことが書かれたりするという問題が発生し、個人個人のモラルやマナーが問われるようになってきました。私もmixiに加入していますが、そのような問題がいつ発生しないとも限りません。

だからこそ、どのようにmixiを活用していくべきかを知る必要が、私たちにはあると思います。

mixiに加入されている方は、一度は読んでみて下さい。

二つ目は、夜回り先生こと水谷先生についての上・下巻の本です。もうご存知の方もいるかもしれませんが、水谷先生は現在、教師の職を辞められて、青少年の心の問題を解決したり、やわらげようと、日々活動をされています。水谷先生は、非行をしたり、自殺をしようとする子供たちに「それでいいんだ。」と優しく語りかけ、決して否定はしません。

いじめ問題や犯罪の低年齢化、凶悪化が進む中、世の中には体をはって、それを解決していこうとする人がいるんだということを、みなさんに知ってほしいと思います。特に教師を目指している方にはぜひ読んでほしい一冊です。

選書ツアーは、自由に本が選べて楽しかったです。次回も開催するならば、ぜひ参加したいです。本当にありがとうございました。

選書ツアー感想文

医学部医学科1年 石場 領

今回、機会あって選書ツアーに参加しました。その体験を踏まえた上で、今回は本の意義について自分なりの考えを述べようと思います。

私たち大学生は、これから社会に出て本当の意味で大人になります。責任や義務を果たさなければならないという堅苦しい意味もありますが、今回の話では、自分で決断を下し自律する、自分がやりたいあるいはなりたいものへ近づくことができるという意味での大人です。これは、常にいいことばかりではなく、もちろんうまくいかないことや、時には苦しむこともあるわけです。しかし、これは親に依存していた中学生や高校生の身分では実感できなかったことであり、良い意味でも悪い意味でも大変魅力的な世界だと言えるでしょう。では、その大人になる前になにかするべきなのかというと、私は決して構えすぎることはないと思います。徹底的に遊びたいと思ったら遊ばばいいし、何もしない日があってもいい、やってないことにチャレンジしてもいいし、誰かと一切会わない日を作ったっていい。つまり、どう生きてもいい。これが、大学生の特権なのです。読書もその何をやってもいいという選択肢の一つに入れてもいいのではないのでしょうか。

では実際に本を読むことでどうなるのでしょうか。本を読むという行為そのものは確かに地味であり華やかさに欠けます。それでも頭の中では現実には起こっていることとは別に、凄かったり凄くなかったりする世界が広がっていくわけです。(凄くなかったりするとあえて書いたのは全ての本に凄いを求める必要はないし、それぐらいの余裕は持ってほしいからです。)他にも、自分には全くない考え方にはとっさせられたり、自分の考えとは似ているがどこか違う考え方に対して真摯に向き合うこともできる。自分の好きな内容やフレーズを本の中に発見することもあるだろうし、それらによって物の見方が変わることで

あるでしょう。つまり、本に対していくつものアプローチの仕方があるわけで、その分だけ本を読む楽しみや喜びが増すわけです。手段のための読書だけでなく、読書自体が目的となる読書が出来れば、きっと生活に幅が生まれると思います。そういった人生の楽しみ方も大学生生活中に模索してみてはいかがでしょうか。



選書委員会の様子



本館



分館

第6回 図書館月間を開催 平成18年11月

附属図書館では、毎年11月を図書館月間とし、学内また地域の方に向けてさまざまなイベントをおこなっている。今年のテーマは「見聞録への誘い～図書館からの発信～」。多方面で活躍中の講師陣による文化講演会と公開セミナー、また、図書館職員による地域の方対象の情報検索講習会が開催された。展示コーナーにおいては、小城鍋島文庫の中から大庭雪齋に関する貴重コレクションが公開された。

1. 文化講演会

日時：11月24日(金) 14:20～15:20

講師：小巻 正直 氏 (元・富士ゼロックス総合教育研究所・スペースアルファ神戸所長)

演題：「知遊館への誘い ～私のブリコラージュの楽しみ～」



小巻 正直 氏

小巻氏は、「何かをつくるためにすでにある材料を最大限に活用すると、本来のものから大きく変容した新たなものが生まれる。そこに私たちは、人の知恵と可能性、創造性の喜びを見出す」という、中村雄二郎氏の『知の旅への誘い』（岩波書店・1981）から引用した“ブリコラージュ”をテーマに講演された。図書館＝知遊館とし、小巻氏が感銘をうけた本などからまとめられた写し絵をもとに話を進め、人や本を通じて自分の人間性を問うてみよう、と人生訓を語られた。

2. 公開セミナー

セミナー1

日時：11月7日(火) 14:20～16:20

講師：上野 信好 氏 (元・佐賀市収入役)

演題：「芭蕉山脈の九州そして佐賀」



上野 信好 氏

公開セミナーの初日は、上野氏による芭蕉についての講演がおこなわれた。年譜をつかって芭蕉の生涯を説明されたあと、蕉風俳諧の特徴である、わび・さび・かるみ・比喩などを、いろいろな俳諧の例を通してわかりやすく解説された。芭蕉は九州に訪れたことはなかったそうだが、芭蕉の死後、蕉門の弟子たちや蕉風の俳壇によって蕉風俳諧が九州に伝播していった様子を、独自の資料で紹介された。最後に、旧制佐賀高等学校の教員であり芭蕉の研究者であった、杉浦正一郎氏の学績を語られるなど、上野氏ならではの奥深い講演となった。

セミナー2

日時：11月14日（火）14:20～15:20

講師：田中 明 氏（佐賀大学海浜台地生物環境研究センター）

演題：「虹の松原 ～ショウロ（松露）、再び～」



田中 明 氏

田中氏は虹の松原七不思議の会と、松露（ショウロ）ライゾボゴンルベツセス（ショウロの学名）の会に所属し、ショウロの育成に尽力されている。「ショウロが育つ環境は、クロマツにとってもよい環境といえる」、と氏は述べられた。美しく防災機能にすぐれた虹の松原（クロマツ海岸林）を守るためにおこなっている、腐植層の除去・堆積松葉の除去・木炭の埋設・松葉かきなど、ショウロ育成活動の様子を、写真を交えてわかりやすく講演された。

セミナー3

日時：11月14日（火）15:35～17:00（展示見学説明会17:00～17:30）

講師：青木 歳幸 氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター）

演題：「小城鍋島文庫 大庭雪齋史料について」



青木 歳幸 氏

幕末佐賀藩の蘭学者、大庭雪齋について講演された。大庭雪齋が学んだとされる島本良順、シーボルト、中天游、緒方洪庵の紹介をされたのち、『民間格致問答』、『算字算法基原或問』など、図書館に所蔵されている大庭雪齋の著述・訳述書また関連する資料8点について説明された。その後、資料が展示されている1階エントランスホールに場所を移し、実物を前に資料の解説がおこなわれた。

セミナー4

日時：11月17日（金）14:20～15:20

講師：久原 興民 氏（元・都響第二バイオリニスト 現・アルモニア管弦楽団主宰者）

演題：「オーケストラよもやま話」



久原 興民 氏

東京都交響楽団でバイオリニストとして活躍されていた久原興民氏。モーツァルトの曲を鑑賞し、その曲の解説をしながら、35年間にわたるオーケストラ時代の経験談を交え、オーケストラ曲の魅力を語ってくださった。「音楽のたのしさを十分感じる事ができた」との感想が寄せられるなど、音楽の素晴らしさを実感することのできた講演であった。

セミナー5

日時：11月17日（金）15:30～16:30

講師：久原 正之 氏（元・大映プロデューサー 現・鹿島市教育委員会生涯学習センター「エーブル館」館長）

演題：「映画に魅せられて ～もう一度逢いたい！～」



久原 正之 氏

大映プロデューサーとして40年、映画に関わってきた久原正之氏が、制作の現場からみた映画の世界を講演された。映画制作を通して、たくさんの人たちと出会えたことが素晴らしい財産になったとおっしゃった。幅広く豊富な人生経験から語られる、監督や俳優、作家などの話は大変興味深いものであり、なかでも三島由紀夫氏との秘話を紹介されるなど、めったにきくことができない貴重な講演となった。

図書館ホームページ（<http://www.lib.saga-u.ac.jp/>）で各講演の試聴ができます（学内のみ）。
また、図書館マルチメディアルームで、講演のDVD をご覧いただけます。

3. 地域の方対象の情報検索講習会

期日：11月13日(月)～17日(金) 午前の部 11:00～11:40 午後の部 13:30～14:10

会場：附属図書館本館 1階エントランスホール

今回初めての試みとして、地域の方を対象に、インターネットを利用した情報検索講習会が実施された。学外者が使える図書館PC端末の利用方法、Web上で公開されている佐賀大学附属図書館蔵の貴重資料の紹介、新聞データベースの検索方法などの説明をおこなった。そのほか、参加者からのインターネットに関する質問も多くあり、所要時間では足りないほどであった。初回ということもあり、ごく少数の参加者での開催となったが、今回の課題をふまえ、内容を改善して次回の開催につなげていきたい。



4. 大庭雪齋関連 貴重コレクション展示

期日：11月14日(火)～22日(水) 9:00～17:00

会場：附属図書館本館 1階エントランスホール

大庭雪齋は、17歳の頃、佐賀の蘭方医島本良順についてオランダ医学を学び、のち、大坂で緒方洪庵とともに中天游に蘭学を学んだ。帰郷後は、藩医として西洋医学や西洋自然科学の普及につとめ、佐賀の自然科学者として大きな功績を残した。

今回、図書館所蔵の小城鍋島文庫のうち、大庭雪齋が著述・訳述した『民間格致問答』『体液究理分離則』『算字算法基原或問』『レイドタラード』など、大庭雪齋に関連する医学関係資料8点を展示した。初日は青木歳幸氏による解説がおこなわれ、多数の見学者で賑わった。



● 展示資料8点 ●

『算字算法基原或問』

Gelder（ヘルテル）が著した西洋数学書の1824年筆写本を大庭雪齋が翻訳したもの。

『民間格致問答』

1861（文久元）年に、雪齋が56歳の時に翻訳を終え、1865（元治2）年に出版した自然科学入門書。「格致」は格物致知の意味であり、分子、引力、地動説、光など自然科学全般の解説を、先生と植木職人の問答形式でわかりやすく説明している。

『蘭学階梯』

『蘭学階梯』は杉田玄白門人大槻玄沢が記した蘭学入門書。それを清行という人物が筆写したものの。

『Ogen Ziekten』

眼病に関する医学書。蘭文を筆写して、訳注をつけてある。Ogenが眼、Ziektenが病気。原著は不明。筆写者不明。

『和蘭文典』 前編・後編

大庭雪齋訳『訳和蘭文語』（安政2年～4年刊、全5冊）のもとになったオランダ語文法書。天保13年に美作（岡山県）出身蘭学者箕作阮甫によって訳されたもの。

『体液究理分離則』

オーストリアウィーン大学プレンキ教授の医学書のオランダ語訳を大庭雪齋が翻訳したもので、現時点では、ほかにはみられない貴重書。

『地学正宗図』

幕末の蘭学者杉田玄端が出版した世界地図とその解説書。嘉永4年（1851）刊。蘭学者の関心は医学だけでなく地理や科学技術全般にひろがっていた。杉田家刊行の書籍は表紙にエンゼルの模様があるのが特徴。

『レイドタラード』

オランダのJ.N.Calten著の兵書『海上砲術全書』1842年版を大庭雪齋が訳したもの。19冊。

◇図書館サービス紹介◇

●佐賀大学機関リポジトリについて

機関リポジトリとは、研究者が作成した教育研究成果情報（論文、学会発表資料、学位論文等）を収集・保存し、本文をインターネット上に広く公開するシステムのことです。

機関リポジトリには、メタデータ（タイトル、著者名等のコンテンツ情報）を作成し登録します。このメタデータがOAI-PMHというプロトコルにより国内・国外のリポジトリサーバからハーベストされることにより、国立情報学研究所(JuNii)、Google等の検索エンジンから検索されるようになります。検索エンジンから検索されることで学内における教育研究成果を効果的に広く国内外に広めることが可能になります。

佐賀大学では、平成13年から電子図書館システムを構築・運用し、学内に蓄積された教育研究成果情報の電子化及び公開を行っています。この電子図書館システムに収集・保存してきた紀要論文・学位論文・植物遺伝資源情報・シラバス・研究業績等の情報発信力を強化することを目的として、メタデータを活用した新たな機関リポジトリの導入に積極的に取り組んでいます。学長承認により、情報政策委員会の下に機関リポジトリ構築・運用ワーキンググループを設置し、全学的に取り組める組織体制の整備を行いました。平成18年国立情報学研究所次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業に採択され、電子図書館システムのデータをメタデータとして整理を行い、平成18年12月に機関リポジトリの試験公開を開始することができました。現在収録されているコンテンツは、紀要論文（4,400件）、学位論文（1,400件）、貴重書（3,500件）、植物遺伝資源情報（120件）、シラバス（21,000件）になります。今後は、上記の他に大学データベースに登録されている研究業績（学術論文、発表論文、電子教材等）について整理を進めていく計画です。

機関リポジトリを整備していくうえで、メタデータだけでなく1次情報を電子化し保存・公開していく必要があります。電子化・公開については、著作権処理やデータ整備のための人的・経費的な面で多くの問題を抱えていますが、学内における理解と協力のもと、コンテンツの整備・充実を図り機関リポジトリが佐賀大学の教育・研究成果の統合的な情報発信の窓口となるようにしていきたいと考えています。

●図書館ポータルについて

図書館利用サービスの窓口として平成18年からホームページに図書館ポータルを開設しサービスを行っています。図書館ポータルでは、図書館への問い合わせ、佐賀大学蔵書・電子ジャーナルの検索、自分が購入を希望する図書申し込み、自分の現在の予約状況・貸出状況の確認、貸出中の図書の予約、グループ学習室の予約、文献複写の依頼・相互貸借の依頼など、図書館サービスをWebを介してワン・ストップで利用できるようになっています。また、携帯電話サイトからも同様に利用できます。

□佐賀大学機関リポジトリ



<http://portal.dl.saga-u.ac.jp/>

□図書館ポータル



<https://opac.lib.saga-u.ac.jp/portal/>

● 受入資料紹介 ●

●学生用図書

平成17年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入しました。(冊数はいずれも非図書資料の点数を含む。)

教員推薦図書	1,092冊
学生希望図書	219冊
図書館推薦図書	342冊
継続購入図書	250冊

●寄贈図書

○大学関係者著作図書

- ・文化教育学部教授 撫尾知信
[共著] ヨーロッパ文化と「日本」：モデルネの国際文化学（佐賀大学文化教育学部研究叢書；1）／田村栄子編 昭和堂
- ・文化教育学部教授 浦田義和
[単著] 占領と文学／浦田義和 法政大学出版局
- ・文化教育学部教授 朱雀成子
[単著] 愛と性の政治学：シェイクスピアをジェンダーで読む／朱雀成子 九州大学出版会
- ・理工学部教授 小倉幸雄
[共著] 確率論入門（確率論教程シリーズ；1）／池田信行ほか 培風館
- ・理工学部教授 丹羽和彦
[単著] 鄙のデザイン／丹羽和彦・丹羽研究室
- ・地域学歴史文化研究センター教授 青木歳幸
[共著] 日本医療史／新村拓編 吉川弘文館

○その他

- ・文化教育学部教授 石原秀太
ブッシュの野望サウジの陰謀：石油・権力・テロリズム／クレイグ・アンガー 柏書房
歴史の終りか幕あけか：ドイツ大統領大いに語る／ヴァイツゼッカー 岩波書店
- ・文化教育学部教授 辻健児
States, responsibility of states, international law and municipal law
(Encyclopedia of public international law ; 10) North-Holland
Law of the sea, air and space

- (Encyclopedia of public international law ; 11) North-Holland
Geographic issues
(Encyclopedia of public international law; 12) North-Holland
- ・文化教育学部教授 古川末喜
王維研究 (日本中國學文萃／王晓平主編) / (日) 入谷仙介著；卢燕平译
中华书局
詩魔:二十世紀の人間と漢詩／一海知義 藤原書店
漢詩人子規：俳句開眼の土壤／加藤国安 研文出版
中国語の環：総集編 (1) / 「中国語の環」編集室 日本中国語検定協会
中国語の環：総集編 (2) / 「中国語の環」編集室 日本中国語検定協会
文心雕龍の研究 (東洋學叢書) / 門脇廣文 創文社
阮籍・嵇康の文學 (東洋學叢書) / 大上正美 創文社
知識ゼロからの中国名言・名詩／河田聡美 幻冬舎
距離與想象:中國詩學的唐宋轉型 (日本宋學研究六人集／王水照主編) / 浅見洋二著；金程宇, 岡田千穂譯 世紀出版集團：上海古籍出版社
 - ・経済学部助教授 山本長次
金沢大学50年史 通史編／金沢大学50年史編纂委員会
 - ・理工学部教授 小林茂治
新しい歴史教科書：市販本／西尾幹二ほか 扶桑社
 - ・農学部教授 武田淳
新潟県の地域と文化：地域を学ぶために／板垣俊一 雑草出版
海と生きる：サンゴ礁とともに：石垣島・白保 [ビデオ] /WWFジャパン
 - ・一ノ瀬俊也
銃後の社会史：戦死者と遺族 (歴史文化ライブラリー；203) /一ノ瀬俊也 吉川弘文館
 - ・逸見学
アナーキスト群像回想記：大阪・水崎町の宿：大正三年～昭和二十年サブロー少年覚え帳／宮本三郎 あ・うん
 - ・今泉勉
失神の診断と治療／安部治彦編 メディカルレビュー社
 - ・牛込三和子
からだに障がいをもつ仲間とともに：安全な移動介助とボランティア活動 [ビデオ] /日本難病看護学会企画；東京シネ・ビデオ制作 東京シネ・ビデオ
 - ・大城建夫
税務会計の理論的展開／大城建夫 同文館出版
 - ・岸恵子

侵略からの解放・革命（教えられなかった戦争／映像文化協会企画製作著作；中国編）〔ビデオ〕
映像文化協会

こんにちは貢寮（貢寮你好嗎？）〔ビデオ〕／崔愷欣監督 全景文化事業有限公司

・佐藤太美

神祇文学として読む「平家物語」（上）／佐藤太美 東京経済（発売）

神祇文学として読む「平家物語」（下）／佐藤太美 東京経済（発売）

・須磨幸蔵

ペースメーカーの父・田原淳／須磨幸蔵 梓書院

・田淵和雄

グリオーマ 病態と治療／田淵和雄 シュプリンガー・フェアラク東京

ポストシークエンス時代における脳腫瘍の研究と治療／田淵和雄 九州大学出版会

・鶴尾隆

発がんの分子機構と防御（がん研究のいま；1）／笹月健彦；野田哲生編 東京大学出版会

がん細胞の生物学（がん研究のいま；2）／高井義美；秋山徹編 東京大学出版会

がんの診断と治療（がん研究のいま；3）／中村祐輔；稲澤讓治編 東京大学出版会

がんの疫学（がん研究のいま；4）／田島和雄；古野純典編 東京大学出版会

・鶴野淳弼

Cesare Vecellio : degli abiti antichi e moderni di diverse parti del mondo

中世イタリアの被服文化史：コスチュームとファッションのルーツ／鶴野千鶴

・永井輝

よくわかる孟子：やさしい現代語訳／永井輝訳 明窓出版

・花村嘉英

計算文学入門：Thomas Mannのイロニーはファジィ推論といえるのか？／花村嘉英 新風舎

（敬称略）



● 図書館統計 平成15年度～平成17年度 ●

1. 蔵書統計

①年度別蔵書冊数

単位：冊

年度		和書	洋書	合計
15年度	本館	388,223	180,912	569,135
	医学分館	57,376	42,324	99,700
16年度	本館	394,042	182,580	576,622
	医学分館	59,274	42,606	101,880
17年度	本館	398,472	184,123	582,595
	医学分館	60,048	44,141	104,189

②年度別受入冊数

単位：冊

年度		和書	洋書	合計
15年度	本館	5,218	2,532	7,750
	医学分館	1,223	326	1,549
16年度	本館	4,512	1,881	6,393
	医学分館	1,898	282	2,180
17年度	本館	4,430	1,543	5,973
	医学分館	774	1,535	2,309

③年度別雑誌所蔵種類数

単位：種

年度		和書	洋書	合計
15年度	本館	6,144	2,858	9,002
	医学分館	997	960	1,957
16年度	本館	6,160	2,873	9,033
	医学分館	1,001	981	1,982
17年度	本館	6,434	2,925	9,359
	医学分館	1,006	984	1,990

④年度別雑誌受入種類数

単位：種

年度		和書	洋書	合計
15年度	本館	3,440	906	4,346
	医学分館	647	407	1,054
16年度	本館	3,390	885	4,275
	医学分館	641	412	1,053
17年度	本館	3,353	791	4,144
	医学分館	637	354	991

2. 図書館資料費

単位：千円

年度		図書館備付		研究室備付		合計
		運営経費	その他の経費	運営経費	その他の経費	
15年度	本館	17,465	0	131,585	0	149,050
	医学分館	59,695	0	1,984	0	61,679
16年度	本館	15,138	0	107,124	8,164	130,426
	医学分館	56,761	0	932	0	57,693
17年度	本館	16,496	0	83,335	8,856	108,687
	医学分館	56,410	0	55	0	56,465

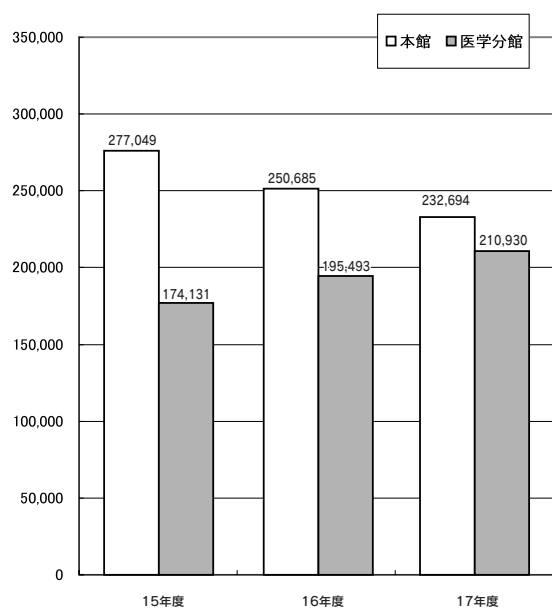
3. 利用統計

①利用対象者数

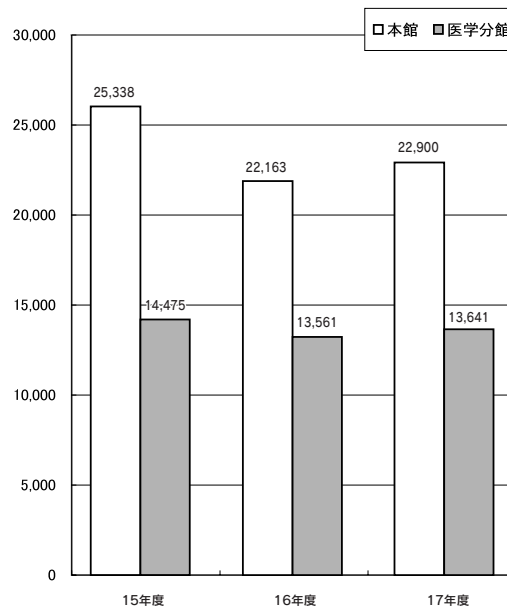
5月1日現在 単位：人

年度		学生	教職員	その他	合計
15年度	本館	6,546	1,223	290	8,059
	医学分館	962	1,320	-	2,282
16年度	本館	6,467	1,448	260	8,175
	医学分館	978	1,204	-	2,182
17年度	本館	6,437	1,384	325	8,146
	医学分館	997	1,319	-	2,316

②入館者数



③館外貸出状況



④学部別貸出状況（本館）

年度	文化教育学部		経済学部		理工学部		農学部	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
15年度	3,253	6,152	1,430	2,495	5,956	9,872	2,295	3,700
16年度	2,717	4,966	1,489	2,501	5,373	8,692	2,017	3,229
17年度	2,874	5,205	1,406	2,336	5,324	8,863	2,199	3,603

⑤分野別貸出状況（本館）

単位：冊

年度	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌等
15年度	691	551	1,107	3,973	9,069	4,743	1,064	904	734	1,073	1,429
16年度	523	519	1,015	3,718	7,633	4,153	776	933	578	1,150	1,165
17年度	529	542	975	3,228	7,321	4,136	792	947	522	2,258	1,640

⑥各室利用状況（本館）

年度	グループ学習室(回)	閲覧個室(回)	マルチメディアルーム(回)	リスニングルーム(回)
15年度	486	103	1,301	737
16年度	377	198	1,122	205
17年度	466	292	923	187

4. 相互利用の状況

①文献複写件数

単位：件

年度		依頼	受託	合計
15年度	本館	2,252	1,834	4,086
	医学分館	4,556	3,828	8,384
16年度	本館	1,978	1,046	3,024
	医学分館	4,281	3,456	7,737
17年度	本館	2,537	1,153	3,690
	医学分館	4,722	2,929	7,651

②相互貸借件数（本館）

単位：件

年度	依頼	受託	合計
15年度	547	277	824
16年度	437	242	679
17年度	468	239	707

5. 情報検索の状況

①データベース利用統計

データベース名	NICHIGAI/WEB MAGAZINEPLUS (雑誌記事索引等)	国立情報学研究所 CiNii (NII論文情報ナビゲータ)	ELSEVIER SCOPUS (引用文献データベース)
17年度	7,476	12,422	2,969
18年度	7,117	13,628	9,305

*平成18年度は4～12月の統計

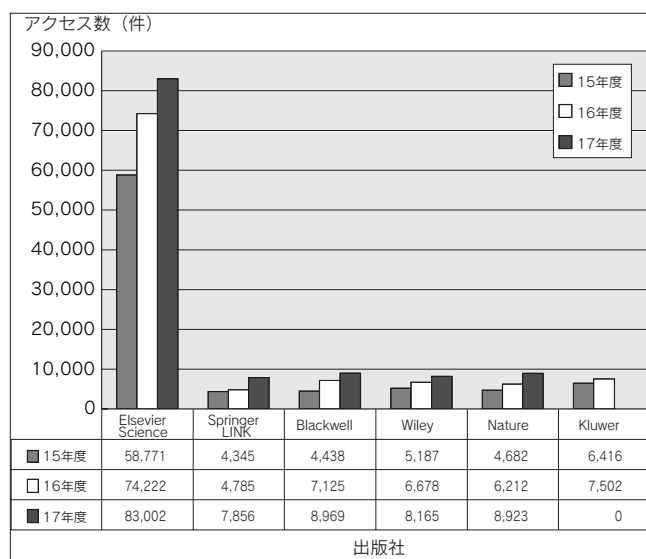
*SCOPUS(引用文献データベース)は平成17年9月～

②情報検索利用件数(医学分館)

年度	件数
15年度	132,494
16年度	124,338
17年度	169,277

(PubMed 利用件数は含まない。)

6. 電子ジャーナルアクセス状況



* Kluwerは平成17年2月より
Springerに統合

人事異動

	発令年月日	氏名	新官職	旧官職
併任	18. 4. 1	高崎洋三	附属図書館長	
併任	18. 4. 1	武田淳	附属図書館副館長	
配置換	18. 7. 1	石丸将敏	学術研究協力部 情報図書館課総務系係長	学術研究協力部情報図書館課 総務係長
配置換	18. 7. 1	福島正徳	学術研究協力部情報図書館課 学術コンテンツ系(図書)係長	学術研究協力部情報図書館課 図書情報係長
配置換	18. 7. 1	田中華子	学術研究協力部情報図書館課 学術コンテンツ系(雑誌)係長	学術研究協力部情報図書館課 情報サービス係長
配置換	18. 7. 1	浅岡宏信	学術研究協力部情報図書館課 利用サービス系(電子情報)係長	学術研究協力部情報図書館課 電子情報係長
配置換	18. 7. 1	森暁子	学術研究協力部情報図書館課 利用サービス系係長	学術研究協力部情報図書館課 雑誌情報係長
配置換	18. 7. 1	三浦聡子	学術研究協力部情報図書館課 医学利用サービス系係長	学術研究協力部情報図書館課 医学情報サービス係長
配置換	18. 7. 1	松尾康和	総務部総務課 情報システム係長	学術研究協力部情報図書館課 医学情報管理係長
配置換	18. 7. 1	久富真理子	学術研究協力部研究協力課 事務員	学術研究協力部情報図書館課 事務員
配置換	18. 7. 1	猿渡啓介	学術研究協力部情報図書館課 事務員	学術研究協力部研究協力課 事務員
配置換	18. 7. 1	百田幸一	学術研究協力部情報図書館課 主任	学術研究協力部情報図書館課 医学情報管理係主任
退職	18.12.31	金子弘康		学術研究協力部 情報図書館課長
昇任	19. 1. 1	瓜生照久	学術研究協力部 情報図書館課長	九州大学附属図書館図書館 企画課企画係長

図 書 館 目 誌 (会議・研修・来客等)

● 平成18年 ●

- 4月19日 次世代学術コンテンツ基盤共同構築の委託事業及び委託事業公募説明会
(於：学術総合センタービル)
- 4月20日 第36回九州地区国立大学図書館協会総会
(当番館：鹿屋体育大学附属図書館、於：城山観光ホテル)
- 4月21日 第57回九州地区大学図書館協議会総会
(当番館：鹿屋体育大学附属図書館、於：かごしま県民交流センター)
- 5月25日 平成18年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(理事館：久留米工業大学図書館、於：久留米工業大学本館ホール)
- 6月6日 附属図書館運営委員会（第1回）
「佐賀大学附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会要項（案）の一部改正について」他
- 6月14日～16日 平成18年度目録システム地域講習会（図書コース）（於：九州大学附属図書館）
- 6月27日 附属図書館医学分館運営委員会（第1回）
「平成17年度医学分館資料購入決算について」他
- 6月28日 第2回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー
(於：学術総合センター)
- 6月29日 第53回国立大学図書館協会総会
(当番館：一橋大学附属図書館、於：一橋記念講堂)
- 7月3日 日本図書館協会「佐賀県会員の集い」（於：伊万里市民図書館）
- 7月7日 附属図書館選書専門委員会（第1回）
「平成18年度附属図書館蔵書整備計画（案）について」他
- 7月12日 平成18年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業委託事業説明会
(於：学術総合センター)
- 7月21日 平成18年度佐賀県大学図書館協議会
(当番館：佐賀大学附属図書館)
- 8月22日 平成18年度電子ジャーナル地区説明会（於：九州大学附属図書館）
- 8月28日 広島大学図書館ワークショップ「学術情報の新しいチャンネル」
(於：広島大学中央図書館)
- 8月29日 附属図書館医学分館運営委員会（第2回）
「2007年版共通購読雑誌及びレビュー誌の継続・中止について」他

- 9月15日 平成18年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
(当番館：有明工業高等専門学校図書館)
- // 附属図書館医学分館運営委員会（メール会議）
「新規購読雑誌について」
- 9月28日 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会（第1回）
「藩法研究会の貴重資料の借用について」他
- 10月4日 附属図書館選書専門委員会（第2回）
「平成18年度本館学生用図書を選定について」他
- 10月11日～13日 学術情報リテラシー教育担当者研修（於：大阪大学附属図書館）
- 10月13日 第54回九州地区医学図書館協議会総会
(当番館：長崎大学附属図書館医学分館、於長崎パークサイドホテル)
- 10月16日 附属図書館運営委員会（第2回）
「佐賀大学附属図書館評価委員会要項（案）の制定について」他
- 10月16日～17日 平成18年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議
(当番館：鹿屋体育大学附属図書館)
- 10月17日～20日 平成18年度大学図書館職員講習会（於：京都大学附属図書館）
- 10月23日～27日 平成18年度（第43回）九州地区国立学校会計事務研修
(於：長崎大学)
- 11月7日 附属図書館主催公開セミナー（第1回）
『芭蕉山脈の九州そして佐賀』
講師 上野 信好氏（元・佐賀市収入役）
- 11月13日 第1回九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会
(於：九州大学事務局)
- 11月13日～17日 洋書事業関係米国視察研修（米国サンフランシスコおよび近郊）
- 11月14日 附属図書館主催公開セミナー（第2回）
『虹の松原～ショウロ（松露）、再び～』
講師 田中 明氏（佐賀大学海浜台地生物環境研究センター）
『大庭雪齋について』ミニ展示見学説明会
講師 青木 歳幸氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター）
- 11月17日 附属図書館主催公開セミナー（第3回）
『オーケストラよもやま話』
講師 久原 興民氏（元・都響第二バイオリニスト）
(現・アルモニア管弦楽団主宰者)
『映画に魅せられて～もう一度逢いたい!～』
講師 久原 正之氏（元・大映プロデューサー）
(現・鹿島市教育委員会生涯学習センター「エーブル館」館長)

- 11月24日 附属図書館主催文化講演会
『知遊館への誘い～私のブリコラージュの楽しみ～』
講師 小巻 正直氏（元・富士ゼロックス総合教育研究所・
スペースアルファ神戸所長）
- 11月28日 医学分館運営委員会（メール会議）
「教育・研究用推薦図書の評価結果について」他
- 11月30日 平成18年度九州地区国立大学附属図書館館長、事務（部・課）長会議等
（於：九州大学附属図書館）
- 12月 5日 第14回九州地区医学図書館員セミナー（当番館：熊本大学医学部権樹会館）
- 12月13日～15日 平成18年度図書館等職員著作権実務講習会（於：福岡市教育センター）
- 12月18日 第2回九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会
（於：九州大学事務局）

● 平成19年 ●

- 1月 5日～6日 第2回国立大学附属図書館の課題に関する館長懇談会
（於：京都大学百周年時計台記念館）
- 1月21日 「わが国のEBM卒前教育の現状」フォーラム
（於：神戸大学医学部 神緑会館 多目的ホール）
- 2月 5日 日本図書館協会「佐賀県会員の集い」
（於：小城市民図書館三日月館）
- 2月 9日 医学分館運営委員会（メール会議）
「メディカルオンラインの導入検討について」
- 2月15日 平成18年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会
（於：久留米工業大学本館会議室）
- 2月19日 附属図書館評価委員会（第1回）（書面回議）
「佐賀大学附属図書館外部評価報告書（案）」
- 3月 2日 附属図書館運営委員会（第3回）（書面回議）
「SCOPUS整備のための学長経費要求について」
- 3月 9日 第3回九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会
（於：九州大学事務局）
- 3月22日 附属図書館運営委員会（第4回）
「平成19年度計画について」他

表紙解説

地域学歴史文化研究センター教授 青木 歳 幸

本書は、佐賀藩医で蘭方医大庭雪齋（1806～73）が、1861（文久元）年に翻訳を終え、60歳の1865（元治2）年に出版した自然科学入門書で、全6冊。原著は1830年にオランダで出版されたJohannes Buijs著「フォルクス・ナチュールキュンデ（Volks-natuurkunde）」である。natuurkundeは自然科学の意味で、本書では、万有学と翻訳されている。

「格致」は格物致知で、朱子学では、知を拡充して（致知）事物に内在する物理法則をきわめる（格物）という意味である。自然科学の啓蒙書として問答形式で出版されたものを、大庭雪齋が幕末における民間への自然科学入門書として、大坂天満難波筋鳥屋文兵衛から出版した。販売先は大坂、京都、江戸のほか佐賀の原口吉二方もあった。

内容は、分子、引力、地動説、光など自然科学全般の解説を、先生と植木職人の問答形式で、話し言葉で書いている。また、すべての漢字に読み仮名をふって平明さを徹底している。地動説の説明では、太陽の近くに水星（メルクリュス）があり、この星は太陽の周りの軌道を88日で一周し、次の金星（フェニクス）は225日で一周する。地球は24時間に1回地軸を中心に自転しつつ、月と一緒に365日と約6時間で太陽の周りを一周する。次には火星（マルス）、木星（ユピテル）、土星（サチュリニウス）、『ユラニウス』（天王星）があると説明している。1830年当時の西洋天文学の到達度がわかる。

雪齋は、キリスト教についても深い理解を示していた。が、造物主キリストという語はまだタブーな時代であったから、著書『訳和蘭文語』ではキリストをモーセに言い換えて翻訳しているなど、慎重に翻訳を行っていた。

雪齋は、佐賀藩医大庭家に養子にはいり、17歳の頃、佐賀の蘭方医島本良順についてオランダ医学を学び、のち、大坂で緒方洪庵とともに中天游に蘭学を学んだ。帰郷後、藩医として西洋医学や西洋自然科学の普及につとめた。佐賀藩で他出蘭学塾修業者数が佐賀出身伊東玄朴塾の44名について、緒方洪庵塾が35名と多いのも大庭雪齋の影響であろう。1851（嘉永4）年、藩の蘭学寮初代教導、1858（安政5）年、藩の医学校好生館教導方頭取になり、好生館での全藩領医師の西洋医学研修を義務づけるなど、幕末期佐賀藩の西洋医学化を主導した。1865（慶応元）年に高齢のため職を辞し、1873（明治6）年没した。享年68歳。墓は佐賀市伊勢町の天徳寺にある。主な著書に『民間格致問答』のほか、オランダ文法書『訳和蘭文語』（安政2年～4年刊、全5冊）、西洋数学書『算字算法基原或問』（幕末）などがある。



ひかり野 佐賀大学附属図書館報 No.31 2007年3月

編集発行 佐賀大学附属図書館 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

TEL (0952) 28-8902 FAX (0952) 28-8909

ホームページアドレス <http://www.lib.saga-u.ac.jp/>

印刷 株式会社 三光
